

まちづくり通信No.73 市民ネットワーク

湯浅美和子の市議会報告

- 1面 平成24年第1回定例会(2/20~3/16)報告
土壌調査ははじめました、政治カフェ
- 2面 みはまネットの活動報告
「階段昇降お試し」から見えてきたこと
市民事業、インフォメーション

発行 市民ネットワーク/編集 市民ネットワークみはま
千葉市美浜区高洲1-24-2 千葉市不動産会館ビル3F
〒261-0004 Tel・Fax 278-5005
メールアドレス・mihama@chibanet.jp
http://www.chibanet.jp/mihama/index.html
配布地域 美浜区 配布部数:50,000部



千葉市平成24年度予算を検証する

予算総額：7533億5600万円（3.7%の増）

熊谷市長3回目の予算編成、その軌跡をたどる

初めての22年度予算編成時には、270億円もの収支不足。国保の繰り入れや退職金の予算化もできないという大変厳しいものでした。その後、事務事業や種々サービスを見直し、昨年度の収支不足は135億円と半減したものの、基金からの20億円の借り入れで、なんとかしのいだ予算編成。24年度当初の収支不足は112億円と、やや圧縮されましたが厳しいことには変わりありません。

しかし熊谷市長になって予算編成過程の公開が格段に進んだことは事実。今回事前公開された予算案の中で、市の提案する「市民活動センター移転」については市民活動の応援にはならないと、意見書を提出。結果として変更はできませんでしたが、意見交換し、今後の対応をしっかりと確認しました。

特別枠へ重点配分

今回の予算の特徴を見ると、財政健全化や行財政改革への取り組みを進めつつも、必要な分野には特別枠を設け重点配分をしたこと、国の補正予算へ対応し防災・減災事業の切れ目ない実施を基本方針としたことがあげられます。さらに、市債管理基金への返済も計画通り予算計上されている（24年度から毎年20億円ずつ返還）ことなどを評価し、予算に賛成しました。

だが、市民への負担増もある

医療の高度化や高齢化により給付費増が深刻で、120億円近い累積の赤字を抱える国民健康保険事業は、「国保財政健全化に向けたアクションプラン」を策定し、立て直しを図ります。その一つとして保険料が全体として6%の

アップとなります。

また、介護保険も第1号被保険者（65歳以上）の保険料率が改定され、基準額（第6段階）が年47,700円から58,644円にアップ。しかし保険料の細分化（9→13段階）により、市民税非課税層への減額措置、高所得者層への賦課割合を引き上げます。

市民生活にとっては厳しい改定です。しかしどちらの保険料も他の政令市と比較すると低いほうであり、今後の安定的な運営のために致し方なしと判断しました。

超高齢社会を地域で生きる

これまで何度となく、美浜区内に高齢者の福祉施設が少ないことを訴えてきましたが、新たに特別養護老人ホームが3か所、美浜区内に建設されます。幸町2丁目のUR団地内、稲毛海岸5丁目の公務員住宅跡地、真砂第1小学校跡施設です。また幸町2丁目の高齢者見守り事業「み・まも〜れ」は、23年度末までの国のモデル事業で、その継続を求めていましたが、市独自の予算が続き継続されることに。ただし、半年間のみ。その後は新設されるあんしんケアセンターが引き継ぎます。

24年度から5期目となる介護保険で、いよいよ地域包括ケアが動き出します。あんしんケアセンターを軸に、地域の住民に保健・医療・介護・福祉が連携して在宅でのサービスを提供するものです。そのためには、地域の福祉資源を豊かに育てていくことも必要だと感じています。



特別枠事業（50事業 約59億7000万円）

- ・あんしんケアセンター増設（12か所→24か所）
／評価はするが、中学校に1か所程度必要、更なる充実を求める
- ・介護人材確保 ホームヘルパー資格の受講料助成／人材の定着につながるか
- ・ファミリーサポートセンターひとり親家庭支援／ファミリーサポートセンターの利用者増となるか
- ・自殺予防相談窓口設置／個々の抱える問題に寄り添う支援が不可欠
- ・太陽熱利用給湯システム設置費補助／太陽光より安価で効率のよい自然エネルギーの活用
- ・国際会議助成制度／幕張メッセの有効活用となるか
- ・協働事業提案制度／約200万で4事業だが、やっと市民との協働が始動
- ・津波ハザードマップ作成・津波避難ビル指定／公共施設43か所を避難ビルに指定、避難経路を含めたハザードマップを作成し、美浜区・中央区に配布

防災・減災事業

（31事業 約98億円）

- ・校舎及び体育館の耐震補強／当初予定を1年繰り上げて耐震率達成を目指す
- ・防災行政無線整備／「聞こえにくい！」に対応し臨海部に10局増設
- ・防災備蓄品整備／各避難所に最低限の食料・生活必需品を配置し、物資のバラツキを解消

3月の政治カフェ

「長期化する放射能汚染とどう向き合うか」を聞いて

3月17日に、埼玉大学講師でチェルノブイリの被災児童の救援活動に関わってきた吉沢弘志さんの学習会に参加しました。

チェルノブイリ原発事故は瞬間的爆発だったので放射能漏出は1週間で止まったのに対して、福島は1年経った現在も収束せず毎時7000万ベクレルの放射能を漏出し続けています。この汚染は北海道から関西地方にまで及んでいて山に降った雨が川を下って首都圏でも東京湾が放射性セシウムに汚染されていることが1月のNHKスペシャルで報道されました。

放射能のがん死への影響は細胞が活発に分裂する10歳位までの子どもに非常に大きく現れます。私たちにできることは①子どもへは可能な限り被曝を少なくする。②がん抑制遺伝子に作用するミネラル(亜鉛、マンガン、銅など)を多く含む食品(牡蠣、味噌醤油などの大豆類)、バナジウム、海藻類、ポリフェノールやカロテノイドを多く含む果物野菜を多く取る。植物由来の乳酸菌を多く含む漬物などを取り腸内環境を整え、ストレスをためないことです。何よりも大事なことは、原子力に依存しない社会をつくっていくことだと痛感しました。 幸町 大西 宏子

土壌調査ははじめました 一小学校の放射線量測定一

みはま事務所では、昨年6月から、美浜区内の小学校校庭や公園などの放射線量率の測定を行ってきました。(結果は<http://www.ken-net.gr.jp/report/1974/>)

千葉市に対して土壌の調査を求めています。市は空間線量の測定で充分との判断です。そこで、土壌の汚染状況を調べるため、教育委員会から許可を得て3月25日に美浜区内の小学校2校でそれぞれ2か所ずつ(計4検体)土壌を採取し、専門機関に持ち込み分析を行っています。

また空間放射線量率も計測しました。数値は前回に比べると、若干低下したか、ほぼ同程度です。今後、低線量被曝について注意していく必要があると感じます。



放射線量測定



土壌採取

幸町 松崎 啓子

次回測定のお知らせ

5月19日(土) 10:00~

(詳しい場所などはお問合せください)